



No.131 (平成31年3月1日)

お も な 内 容

随 想	1
研修講座寸描	2～4
出前講座寸描	5
2019年度開催予定講座	5～7
ギャラリー欄の紹介	7
研究の成果と課題、 研究協力校の実践	8～10
当研修センターの貸室案内	10

随 想

「教育研修」によせて



上川教育研修センター組合教育委員会
教育長職務代理人 本 田 哲 嗣

いくつもの要因により我が国の社会は大きく変化してきました。今後さらに社会の進歩や変化のスピードは速まる可能性があるとされています。また、学校教育を取り巻く環境も大きく変化していることも認識されています。

これまで学校現場における実践の中で、経験豊富な先輩教員から経験の少ない若手教員へと知識・技能が伝承されることで資質能力の向上が図られてきたが、経験年数の均衡が顕著に崩れはじめてきたためか、近年必ずしも知識・技能の伝承がうまく図られていない状況があるといった指摘も強くあります。教えを請うべき経験の浅い教員よりも、それらの教員を指導し得るミドルリーダーとしての経験を有する教員の方が少ないという状況にあることは明らかです。この課題解決に向け、継続的な研修の充実のための環境整備を図るなどの早急な対策が求められています。

一方、学校が抱える多様な課題に対応し新たな学びを展開できる実践的な指導力を身に付けるためには、教員自身が探究力をもち学び続ける存在であるべきであるという「学び続ける教員像」の確立を中教審の答申は提言しており、このことを具現化していくための教員政策を進めていくことも必要とされています。こうした状況を踏まえ、教育公務員特

例法の一部改正（平成二十八年十一月公布、平成二十九年四月施行）に伴い「教員育成指標」の策定が義務付けられました。本道においても、広域分散型という本道の特性を踏まえるとともに、高度専門職業人として教職キャリア全体を俯瞰しつつ、キャリアステージに応じて身に付けるべき資質や能力について、協議が進められ「すべて北海道のこどもたちのために」を合い言葉に北海道教員一人一人の資質能力の向上を目指し、平成二十九年十二月に「北海道における『教員育成指標』」が示されたのは周知のとおりです。

学校現場で活躍する教員は、現に生じている状況に対応することに多くの時間や労力を割かれています。指標を踏まえた教員研修が、現場の教員にとって必要な知識や技能などが自然に身に付き、さらに自信と誇りを持ちつつ指導に当たれるような支援となることを願うばかりです。

上川教育研修センターが、教員として不易とされてきた資質能力の向上はもとより、時代の変化や自らのキャリアステージに応じて求められる資質能力を生涯にわたって高めていくことのできる力などについての理合で実践的な研修の場として、今後ともその役割をしっかりと果たしていきたいものです。



温根別小学校では、温根別子ども太鼓として、地域文化を伝承しています。
温根別冬まつりや土別市小中学校音楽発表会などで披露しています。みんなで心を一つにして演奏ができるように練習に取り組んでいます。
(土別市立温根別小学校)

センター日誌

11月8日	研修事業拡大会議
12月11日	冬季拡大研究会
12月14日	センター運営協議会
12月25日	1月8日
1月8日	研究室冬集中研
1月18日	センター合同員研修会
2月4日	センター組合教育委員会会議
2月5日	センター組合教育委員会会議
3月1日	センターだより第131号発行
3月31日	平成30年度研究紀要第44号発行(予定)
4月1日	2019年度研修講座開催要項発行(予定)

19 外国語（英語）指導 9/3

笠原 究
（北海道教育大学
旭川校 教授）
工藤 真
（神楽小 教頭）
田所 千恵
（永山南小 教諭）
門田 純
（春光台中 教諭）

講師

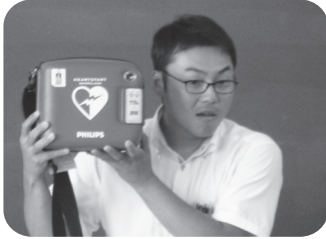
講話では、外国語科指導の今日的課題と指導の在り方について示していただき、今、日本の英語教育に求められているものについて学ぶことができました。小中連携の重要性を改めて確認しました。御指導ありがとうございました。（下川町立下川中学校 佐藤 修二）



講座の様子から

研修講座寸描

11 生活科・総合的な学習の時間 9/4



小野田先生の授業では、自分のもつ情報と友達の情報を比較し、関係付けながら「日本のブランド価値」を見出していました。思考ツールを効果的に用いて活動させるためにどうしたらよいか考えさせられました。参観させていただきました。ありがとうございます。（旭川市立東光小学校 青柳 絃子）

中嶋 弘恵
（北鎮小 教頭）
米澤 徳之
（日章小 教諭）
小野田 太一
（向陵小 教諭）
早川 裕章
（神居東中 教諭）

講師

9 国語科指導 9/4

渥美 伸彦
（北海道教育大学
旭川校 准教授）
関 聡子
（永山小 教諭）
石塚 泰鑑
（朝日小 教諭）
長澤美由紀
（東陽中 教諭）

講師

（上富良野町立上富良野西小学校 伊藤 悟士）

講話や授業実践を通して、「話し合い」指導の充実に向けた授業改善のポイントを示していただきました。話し合いの「こつ」（話型）や「見える化」（文字化資料）の有用性を実感しました。御指導いただき、ありがとうございます。



16 生徒指導 9/5

日比生 司
（六合中 教頭）
石塚 智樹
（東川中 教諭）
田中 雅城
（緑が丘小 教諭）

講師

児童の自己指導能力を育成するために、「児童生徒に自己決定権を与える」「児童生徒に自己存在感を与える」「共感的人間関係を構築する」が必要とのことでした。今後、子どもたちと関わる上で参考にしていきたいです。（富良野市立樹海小学校 吉澤 賢吾）

(3)



27 校内研修 10/3

講師 II

高田 秀人 (新町小 教頭)
戎谷 千晶 (新町小 教諭)
名和田 絵美 (新町小 教諭)

校内研修について、講話から理論を、新町小の研修内容・実践・事後研から実践を教えていただきました。今回の学びを生かし、自校の研修を振り返り、次年度の計画を立てていきます。御指導ありがとうございました。
(富良野市立東小学校 北川 朋尚)

28 学校・家庭・地域の連携 10/4

講師 II

石田 貴宏 (北海道教育庁学校教育局 義務教育課子ども地域支援グループ 主査)
小島 紀行 (北海道教育庁上川教育局 教育支援課社会教育指導班 主査)

コミュニティ・スクールには学校運営協議会を置き、そこで学校と地域が教育目標を共有して、その中に地域性を生かした計画や活動などを協議して位置付けることができるとが分かりました。
(旭川市立高台小学校 梶田 千晶)



17 社会科指導 10/5

講師 II

坂井 誠亮 (北海道教育大学 旭川校 教授)
三浦 一路 (朝日小 教頭)
近田 博信 (神楽岡小 教諭)
佐藤 拓紀 (愛宕中 教諭)

今回の講座では、講義・授業を通して、「単元を通じた問題解決的な学習」のための学習計画の立て方の重要性を改めて感じました。単元を通して、社会的現象を自分ごととして捉え、深い学びにつなげていく授業を実践していきたいです。
(士別市立糸魚小学校 佐藤 大士)



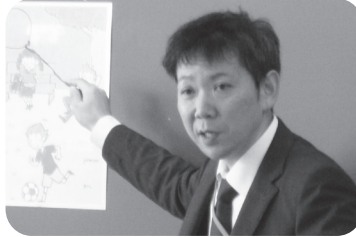
2 特別活動② 10/12

講師 II

綿木 尚弘 (台場小 教頭)
小野崎 貴子 (永山中主幹教諭)
石川 桂子 (東五条小 教諭)
佐竹 浩明 (光陽中 教諭)

小中学校の特別活動を参観し、児童生徒が大人になった時に自分の生活や地域・社会に役立つような力が系統的に身に付いていくことが分かりました。研究協議では多様な取組を知ることができました。御指導ありがとうございました。
(美瑛町立美瑛東小学校 上ノ澤千尋)





29 国際理解教育 10/12

講師Ⅱ

荒川美奈子（春光小 教頭）
千川原悦子（東聖小 教諭）
島山 剛嗣（永山南中 教諭）

講話の中でお話があった「心の育成」という言葉がとても印象的でした。子どもたちが多様な価値観に触れ、広い視野をもって、相手と友好的に関係を築こうとする力を身に付けさせたいと改めて感じました。今回教えていただいた実践例を参考にし、授業や学級活動などで取り入れていきたいです。

（東神楽町立東神楽中学校 大石 彩佳）

30 ミニ道研A 8/10

講師Ⅱ

北海道立教育研究所による遠隔研修

研修では、授業の改善や他校の取組について御教示いただきました。今回の内容については、自身自身の勉強不足で理解することができない部分もありましたが、いつかこの研修に参加してよかったと思うことができるよう努力したいと思っています。

（北海道名寄産業高等学校 西川 聡仁）



講師Ⅱ

北海道立教育研究所による遠隔研修

不安の多かったプログラミング教育ですが、導入の理由やねらいなどを手引から読み取り、隣の方にプレゼンするという方法で学習したり、「Scratch」で実際にプログラミングを行って、正方形や正三角形を作成したりすることができました。ありがとうございました。

（東川町立東川第一小学校 吉野 麗）

31 ミニ道研B 10/23



32 書に親しもう 1/9

講師Ⅱ

伊藤 文江（陵雲小 教頭）

講義では、書に使う筆や墨の種類や効果を知り、書に対してより関心が高まりました。実技では、心に残る字を筆圧や配置を工夫して思いのままに表現する楽しさを味わい、書写指導に生かせる学びとなりました。



（鷹栖町立 北野小学校 西村 美樹）

33 絵に親しもう 1/9

宮崎

智（日章小 教頭）

（中川町立中央小学校 川股佐友里）

人はいない。苦手なだけ。という言葉に励まされ、作品制作ができました。



今年度、手探りで指導した墨絵でしたが、講座の中で題材や画材の選び方、墨の濃淡の表現方法を具体的に示していただき、大変勉強になりました。「絵が下手な



上川管内教育研究会中部地区社会科班「社会科指導」 10/10(水)



【講師：榑部 治彦（啓明小 教頭）】
講話の中で新学習指導要領の視点と小中連携の視点を大切に授業づくりについて教えていただき、指導計画を立てる上で視野を広げることができました。これからの授業改善に役立てていきます。御指導ありがとうございました。

（当麻町立当麻小学校 吹田 凌二）



永山南小学校「生徒指導」 10/3(水)



【講師：鹿本俊一（あすなろ幼稚園 教諭）】
過去の経験を紹介されていた鹿本先生の目に涙を見ました。声を詰まらせる御姿に、本気で向かい合った方からの強いメッセージが伝わってきました。その子の将来の幸せのために、今できることをやり遂げたいと思うところです。

（旭川市立永山南小学校 小玉 智生）



出前講座寸描

出前講座、御活用
ありがとうございました

今年度は11の学校・団体に御活用いただきました。ありがとうございました。

教科指導、不登校への対応、ICTの活用など、各学校の御希望に合わせて講師の先生を選定させていただき、講座を運営することができました。

次年度もどうぞよろしくお願い致します。

旭川中学校「生徒指導」 10/24(水)



【講師：井上 重美（北海道公立学校SC）】
よりよい人間関係を築くためのエンカウンターについて、実践を通して学べたのが大きかったです。同僚と実践する中で、普段知ることのできない情報を聞けたり、雰囲気やかになったりしたことも非常に有意義でした。

（旭川市立旭川中学校 富岡 拓斗）



2019年度 講座開設の工夫

- (1) 第16次推進計画の基本方針に沿い、教職生活全般を通じた教職員等の資質・能力の総合的な向上を目指す講座運営をする。
- (2) 教育経営研修では、教職生活の各段階で求められる専門性の基盤となる資質・能力の充実を目指す講座を開設する。
- (3) 教育指導研修のうち、「幼保小連携教育」講座では、幼稚園および保育所と小学校との滑らかな接続を図り、学びの連続性を重視する。
- (4) 教育課題研修では、多くの今日的教育課題に対応するため、年度ごとに課題を設定する「学校力向上対策」講座を継続する。「教育講演会」は、今日的教育課題解決を目指し、夏季休業中に開設する。
- (5) 教科等指導研修では、小中間の連携を図るため、各校種合同で理論研修を行うとともに小中それぞれの授業研究を行う。また、「学校・家庭・地域の連携」講座では、今日的教育課題に焦点を当ててテーマを設定し、開催する。
- (6) 教科実技研修では、授業研究を重視する。また、「ICT活用」講座でも、授業におけるICT機器の活用を重視し授業研究の充実を図る。
- (7) パソコン実技研修では、「タブレットPC講座」を入門と活用に分けて開設するとともに、個別課題解決など受講者のニーズに応えられる講座を開設し、複数講師による少人数指導で対応する。
- (8) 北海道立教育研究所と連携し、「ミニ道研」を開催する。
- (9) 期限付教員の指導力向上のため、各講座への積極的参加を勧める。
- (10) 講座開設情報は、開催要項に加え、「センターだより」、Webサイト、電子メールによる講座案内等により広く提供していく。
- (11) 講座運営に関する各種資料、関係図書の利便性を図られる資料室の充実に努める。

2019年度 上川教育研修センター開催予定講座

番号	講 座 名	期 日	研 修 内 容	授 業
1	特別支援教育	① 5 / 8 ② 6 / 5	「障がいのある児童生徒の生きる力をはぐくむ学習指導と評価の在り方」 (②で授業研究)	小・中
2	特別活動	① 5 / 9 ② 10 / 9	「児童生徒相互の望ましい人間関係を育てる指導」(②で授業研究)	小・中
3	書写実技	6 / 7	「基礎・基本を徹底し、確実な定着を図る学習指導」(授業研究あり)	小
4	学校経営Ⅰ	6 / 12	「新しい時代を創造する学校経営の在り方」	
5	学校経営Ⅱ	6 / 13	「スクールリーダーとしての教頭の在り方」	
6	読書活動	6 / 18	「読書活動の充実を図る指導の工夫・改善」(授業研究あり)	小
7	図工・美術科指導(実技)	6 / 19	「基礎的な能力を伸ばし、豊かな情操を養う学習指導」 ～「デザインや工芸など」における指導～(授業研究あり)	中
8	体育科指導(実技)	6 / 26	「体づくり運動、器械・器具を使った運動遊び／器械運動」(授業研究あり)	小
9	保健安全指導	7 / 3	「学校における安全・防災に関する指導の在り方」(授業研究あり)	小
10	音楽科指導(実技)	7 / 4	「器楽の基礎的な指導法と指揮法」(授業研究あり)	小
11	複式教育	7 / 12	「主体的・創造的に学び、豊かな心でたくましく生きる力を育む複式教育」 ～地域に根ざした体験活動を通して豊かな心をはぐくむ指導～(授業研究あり)	小
12	国語科指導	① 7 / 25 ② 9 / 3	「言葉による見方・考え方を働かせ、適切に表現する力を育てる国語科指導」 ～「書くこと」における指導～(②で授業研究)	小・中
13	算数・数学科指導	① 7 / 26 ② 8 / 29	「数学的活動の楽しさや数学のよさに気付く授業の在り方」 (②で授業研究)	小・中
14	生活科・総合的な学習の時間	① 7 / 26 ② 9 / 5	「『生活科』及び『総合的な学習の時間』の充実を求めて」 ～探究的な学習態度を育てる指導の充実～(②で授業研究)	小・中
15	生徒指導	① 7 / 29 ② 8 / 26	「組織として主体的に対応する生徒指導の推進の在り方」(②で授業研究)	小・中
16	幼保小連携教育	7 / 29	「小学校への滑らかな接続を目指す幼保小連携教育の在り方」 ～連携・交流活動と学びの連続性～	
17	道徳科指導	① 7 / 30 ② 8 / 26	「児童生徒の道徳性を高める道徳授業の在り方」 ～体験活動を生かした授業と評価について～(②で授業研究)	小・中
18	理科指導	① 7 / 30 ② 8 / 27	「『生命』・『地球』を柱とした内容の科学的な見方や考え方の育成」 (②で授業研究)	小・中
19	教育講演会	8 / 1	講師 直山 木綿子 氏(文部科学省 教科調査官) 演題 「新小学校学習指導要領外国語教育について、全面実施までに、今、 取り組みたいこと」	
20	学校事務実務	8 / 5	「学校事務における今日の課題」 ～学校事務に求められている課題、事務改善の取組～	
21	社会科指導	① 8 / 7 ② 10 / 10	「社会的事象について多面的・多角的に追究し、解決を図る指導」 ～体験・見学・調査活動など具体的な活動～(②で授業研究)	小・中
22	学校力向上対策	8 / 8	「今日の教育課題の解決を図る学校力向上対策」 ～新学習指導要領の実現に向けたカリキュラム・マネジメント～	
23	いじめ・不登校	8 / 8	「『いじめ・不登校』の予防と対策の在り方」	
24	外国語(英語)指導	① 8 / 9 ② 9 / 4	「コミュニケーションを図る資質・能力を育てる外国語(英語)指導の在り方」 ～「聞くこと」「話すこと」の指導と評価～(②で授業研究)	小・中
25	校内研修	9 / 4	「一人一人の実践的指導力を高める校内研修」(授業研究あり)	小
26	I C T 活用	9 / 10	「I C T を効果的に活用した学習指導の在り方」 ～各種機器の効果的な活用～(授業研究あり)	小
27	技術・家庭科指導(実技)	9 / 25	「生活をよりよくしようと工夫する態度を育てる指導の在り方」 ～消費生活・環境～(授業研究あり)	中
28	国際理解教育	10 / 7	「国際理解教育の実践の工夫」 ～学校や地域の実態に応じた指導～(授業研究あり)	小
29	学校・家庭・地域の連携	10 / 8	「子どもたちの生きる力を育むための学校・家庭・地域の連携」	
30	ミニ道研A	未定	北海道立教育研究所による対面研修 「管内のニーズに応じた講座」「プログラミング教育」	
31	ミニ道研B	未定	北海道立教育研究所による遠隔研修 「学校教育基礎シリーズ」「道徳教育」	
32	書に親しもう	1 / 8	「毛筆で心を伝える作品制作(小品)」 ～心に残る言葉を題材にした作品づくり～(午前 半日日程)	
33	絵に親しもう	1 / 8	「切り絵で心を伝える作品制作(小品)」(午後 半日日程)	
34	センター研究発表会	2 / 4	「深い学びを実現する学習指導の在り方」に関する第17次3か年計画の3年次の研究を発表 ～センター研究員の実践、研究協力校の実践～(午後 半日日程)	
パ ソ コ ン 実 技	A 校務のための表計算入門	6/14, 1/7	エクセルの基本的な使い方や表計算の概念について(初級者向け)	
	B 校務のための表計算活用	8/9, 10/24	I F関数やVLOOKUP関数など、実際の校務で使うであろうテクニックや応用(中級者向け)	
	C 校務のための表計算活用/個別課題解決	6/20, 11/7	日常の校務で使用しているデータの疑問や課題を解決(午後 半日日程)	
	D 授業のためのプログラミング入門	6/11, 10/8	小学校プログラミング教育の基本的な解説およびプログラミングの実習 (午後 半日日程)	
	E 学校で役立つタブレットPC入門(iPad)	7/25, 8/7, 12/25	iPadの基本的な使い方について	
	F 授業で役立つタブレットPC活用(iPad)	7/29, 8/8, 1/8	iPadを授業で効果的・効率的に活用する方法について	
	G 校務で役立つタブレットPC活用(iPad)	7/31, 12/26, 1/9	iPadを校務で効果的・効率的に活用する方法について	

～詳細日程は、4月にお届けする「研修講座開催要項」で御確認ください。～

2019年度パソコン講座開設について

● 2019年度パソコン実技研修 開催日一覧 ●

	講座名	開催日
A	校務のための表計算入門	6/14 1/7
B	校務のための表計算活用	8/9 10/24
C	校務のための表計算 / 個別課題解決 ※午後半日での開催	6/20 11/7
D	授業のための プログラミング入門 ※午後半日での開催	6/11 10/8
E	学校で役立つ タブレットPC入門	7/25 8/7 12/25
F	授業で役立つ タブレットPC活用	7/29 8/8 1/8
G	校務で役立つ タブレットPC活用	7/31 12/26 1/9

新学習指導要領完全実施に向け、ICT関連においても「情報活用能力の育成」「小学校プログラミング教育」「タブレットPCを活用した協働学習」など様々な変革が求められています。また、校務に関しましてはこれまで以上に個人情報取り扱いやサイバーセキュリティに関する能力が教職員にも求められるようになってきました。

そこで、次年度のパソコン実技研修講座においては、次の2点について大きく変更いたします。

①プログラミング教育入門講座の実施
内容としては、午後半日日程での開催とし、三十分程度のプログラミング教育の概要説明とプログラミング (scratch) の基本的操作の習得及び実習を行います。なお、プログラミングの講座を開設することにより、今年度まで開設していましたが動画編集・画像編集の

講座を中止いたします。

② Windows タブレットの導入
これまで同様 Pad を中心にタブレット PC の講座を行います。各校で導入が広く進められている Windows タブレットについてもタブレット PC の各講座 (全9回) の中で使用していくことといたします。また、各講座においてサイバーセキュリティについても短い時間ではありますが、解説いたします。表計算ソフト (エクセル) の講座につきまは受講者のニーズを踏まえ、これまで同様に多くの講座を開設いたします。

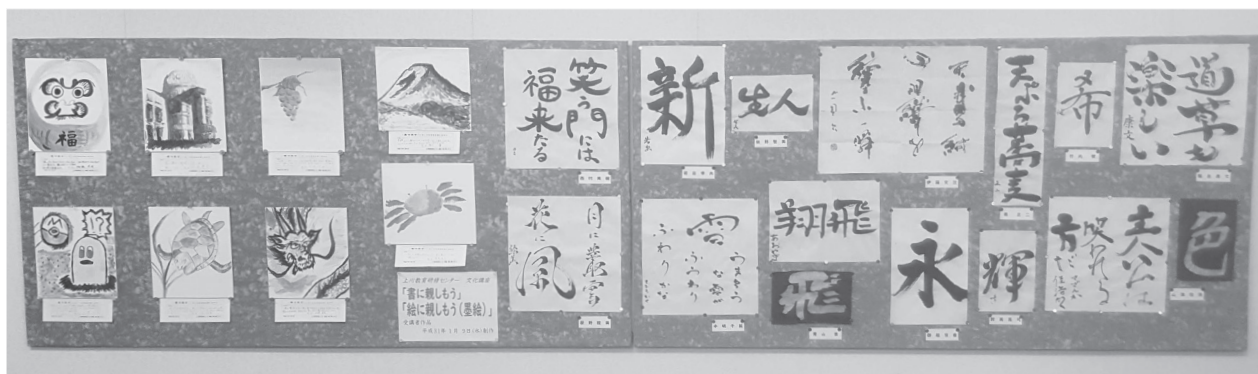
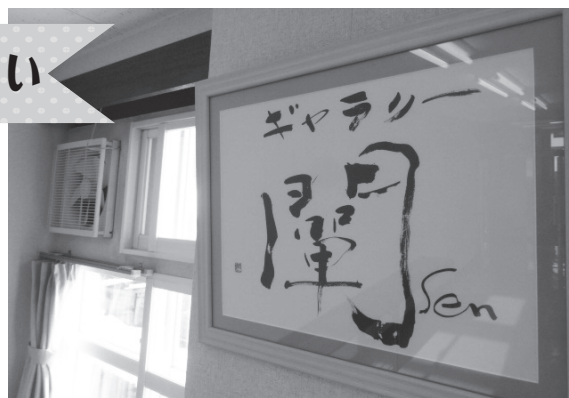
なお、次年度につきましては、多くの講座を長期休業中での開催とし、受講者の皆様により参加しやすいように配慮いたしました。次年度も多くの御参加をお待ちしております。



せん ギャラリーを御利用ください

展示・展覧スペースとして御活用いただけます。申し込みはセンター事務室にて受け付けております。

「書に親しもう」・「絵に親しもう」講座
1月9日 (水) 制作



上川教育研修センターでは、理論研究と実践検証を行った結果、2年次は、次のような成果と課題を明らかにすることができた。

成 果

- ① 深い学びで実現する姿とそれを目指すための単元構成における視点を例示したことにより、児童生徒の思考の流れに沿った単元の指導計画を充実させることができた。
- ② リフレクションを取り入れた研究協議を行うことにより、授業研究の成果と課題をわかりやすく実感を伴って共有できた。

課 題

- ① 教える場面と児童生徒に思考・判断・表現させる場面を効果的に設計し関連させながら指導するなど、単元の指導計画をさらに充実させる必要がある。
- ② 対話的な学びのイメージを具体化し、自分の考えを広げ深める対話の充実を図る必要がある。

詳細は、3月発刊の研究紀要第44号をご覧ください。

研究室だより

今、研究室では

第一七次研究 二年次

研究主題「深い学びを実現する学習指導の在り方」

各教科における主体的・対話的な学びを通して

協校
の実践

「学んだことを自然現象に当てはめる

活用的な学習」

加川市立朝日小学校第五学年 理科

授業者 福嶋 顕勝

一 深い学びを充実させる視点

知識を相互に関連付けてより深く理解する姿を目指すために、既習内容や経験を関連付けた思考の促進を重視した。
単元の三・四時間目に川についての知識を身に付けさせ、五時間目以降の課題解決に取り組ませた。八・九時間目に、水の量を増やした時の水の働きを追究する時間を設定し、十一・十二時間目には、水の働きを使って水害を防ぐ工夫を考えるなどの、学んだことを活用する時間を設定した。

二 本時の目標

流れる水の量を増やすと、地面を削ったり、運んだり、積もらせたりする働きが大きくなることを、今までに学んだ流れる水の働きの知識も生かしながら自分の言葉で説明することが出来る。

三 「主体的な学び」「対話的な学び」に関わる教師の手立て

児童が学びの成果を実感するために、本時における児童自身の学ぶ姿を明確にし、学習の過程と学びの成果を振り返らせる。
対話的な学び「思考の活性化」
学習内容や学習方法について確実に理解させるために、予想と実験結果を比較させ、多面的に分析させる。

四 本実践の成果と課題

予想と実験結果を同時に確認できるワークシートや、実験を撮影した動画を活用することで、論点に沿った対話ができ、思考の活性化につながった。活用場面では、川による災害とその対策について考えさせることで、災害を防ぐための工夫や取組についての理解を深めることができた。考察の書き方について、考察・分析の視点をより明確に示す工夫が必要であった。



協力校 の実践

「すぐれた表現を味わいながら読み、
自分の感じたことを朗読で表現する学習」

旭川市立大町小学校第六学年 国語科

授業者 鈴木 一朗

一 深い学びを充実させる視点

知識を相互に関連付けて情報を精査して考えを形成する姿を目指すために、児童が思考して問い続ける過程を重視した。
単元の一時間目で、音読と朗読の違いを知って朗読に向かう意欲喚起を図った。また、二・五時間目に、人物像・情景・世界観を読み取る時間を設定し、六・八時間目で自らの朗読に反映させる活動へつながるようにした。

二 本時の目標

人物像二つの幻灯から、題名について、自分なりの考えをもつことができる。

三 「主体的な学び」「対話的な学び」に関わる教師の手立て

主体的な学び【学びの成果】

自分で自分の学びの成果を実感させるために、振り返りシートを活用して四件法で振り返らせるとともに、自分の言葉で学習の振り返りを記述させる。

対話的な学び【教科の特性に応じたまとめ】

物語の読みをより確かなものにさせるために、全体交流においてそれぞれの考えの根拠を共有し、読みの妥当性を検討する学習のまとめに取り組ませる。

四 本実践の成果と課題

全体交流の場面では、いろいろな意見を聞く全体交流からキーワードを共有する交流へと目的を転換させたことで、児童は学びを深めることができた。しかし、共有の活動の際に教師がどのように関わっていくのか、これまでの学習をどのように関連付けさせていくのかなど、学びを深めていく手立てでは、もっと吟味する必要がある。



協力校 の実践

「既習内容に関連付けながら
角の大きさの単位と測定について理解する学習」

旭川市立高台小学校第四学年 算数科

授業者 森 走平

一 深い学びを充実させる視点

知識を相互に関連付けてより深く理解する姿を目指すために、既習内容や経験に関連付けた思考の促進を重視した。
一時間目に学習内容を活用して三角形を作図するという単元の見通しをもたせる場面を設定した。二・三時間目は、角度の測定など、知識や技能の定着を図る場面、四・六時間目では、これまでの学習内容を活用して、一八〇度以上の角の測定や角の作図、三角形の作図に取り組む場面を設定した。

二 本時の目標

角の加法性を用いて、一八〇度より大きい角の大きさの測り方を考えることができる。

三 「主体的な学び」「対話的な学び」に関わる教師の手立て

主体的な学び【学習課題の提示】

問題場面を確実に捉えさせ学習の見通しをもたせるために、全体で整理する時間を取り、課題把握につなげていく。

対話的な学び【互いの考えの見える化】

角の大きさの見方を広げるために、複数の見方を並べて板書し、それぞれの見方の共通点や相違点を考えさせる。

四 本実践の成果と課題

一時間目に、単元の目標を明確にしたことにより、児童は、毎時間の学びがゴールに向かっていくことを意識して学習することができた。学習の見通しをもたせるために、問題場面を丁寧に整理することで、本時に何を学ぶのかが明確になり、学習課題の理解や課題解決の見通しをもつことにつながった。



協力校 の実践

「既習事項を活用して、
多面的・多角的に考察し表現する学習」

比布町立比布中学校第一学年 社会科

授業者 梶田 貴裕

一 深い学びを充実させる視点

知識を相互に関連付けて情報を精査して考えを形成する姿を目指し、生徒が思考して問い続ける過程を重視した。
単元の一時目目に単元の課題を設定し、最終時にその解決に取り組む時間を設けた。また、二・四時目には、多面的・多角的に単元の課題の解決に取り組めるような知識・技能を習得できるように単元を構成した。五時目は、既習事項を生かしながら単元の課題に取り組む時間とした。

二 本時の目標

アフリカ州の経済発展が遅れている理由について、既習事項を基に考え、表現することができる。

三 「主体的な学び」「対話的な学び」に関わる教師の手立て

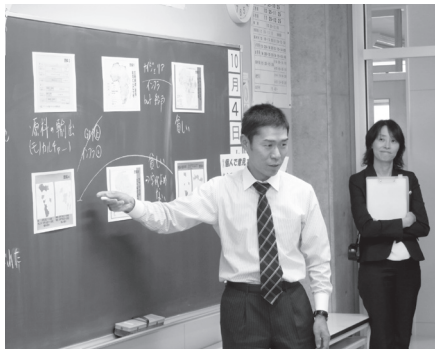
主体的な学び「課題解決の方法や手順」
単元の課題を解決するために、単元における課題解決の過程を明記したワークシートを用いて本時の課題を確認させるとともに、本時の学習の流れを提示する。

対話的な学び「思考の活性化」

友達との交流を通して多面的・多角的に課題に対して考えられるようにするとともに、友達の意見を参考にし、自分の考えを加除修正する対話的な場を設定する。

四 本実践の成果と課題

単元の課題を「アフリカ州はなぜ経済発展が遅れているのだろうか」と設定し、ワークシートや黒板に常に掲示し、学習の流れを示すことで、見通しをもって活動に取り組んだ。
一度構築した考えを、友達との対話で出てきた意見を生かしたり、ワークシートを見ながら既習事項を振り返ったりすることで、深めることができた。



利用上のお願い

会場利用に当たっては、右記の時間内での使用を守っていただくようお願いいたします。

また、当日の混雑状況によっては、当研修センターの駐車場に駐車できない場合があります。予め御承知おきください。

貸室使用料〔一般〕

(教職員等、「承認団体」が研修等で利用する場合は、下記金額の半額)

室 名	午前 (9～12時)	午後 (13～17時)	夜間 (18～21時)
講 堂	2,700 円	3,020 円	4,320 円
講 堂 A・B	1,350 円	1,510 円	2,160 円
研修室 / 会議室	1,080 円	1,290 円	1,830 円
和 室	540 円	640 円	860 円

冷暖房料 (研修センター事務室にお問い合わせください。)

室 名	午前 (9～12時)	午後 (13～17時)	夜間 (18～21時)
講 堂	1,080 円	1,290 円	1,620 円
講 堂 A・B	540 円	650 円	810 円
研修室 / 会議室	540 円	640 円	860 円
和 室	320 円	320 円	320 円

* 冬季は暖房料、夏季は冷房料が加算されます (冷房料は講堂と第1研修室のみ)

宿 泊 料

2,700 円〔暖房料〕430 円 (1 部屋)
* 研修講座受講者、「承認団体」等が行う研修に伴う宿泊者、小中学生は1,290 円

発行日 平成三十一年三月一日
上川教育研修センター
〒077-0003 旭川市六条通四丁目
電話(0166)24-2501
印刷所 東信印刷株式会社 佐藤 保

※この用紙は再生紙(古紙70%)を使用しています。